

常照

第844号

仏壇に水を供える？

最初に結論から申し上げます。浄土真宗では仏壇に水を供える必要はありません。

私の寺の納骨堂の納骨壇の備え付けの仏具に、水を供える茶碗がないと言われたことが少なからずありました。私は、浄土真宗では水を供える必要がないから、茶碗はありません、と言うと怪訝な顔をする方がいらっしやいました。現在でも茶碗がある納骨壇の数は

多いのです。

これは、住職である私の努力不足と反省しなければなりません。ここで常照をお読みの皆様にごきりわりわかり易く解説したいと思えます。

まず、なぜ多くの方が水を供えなければならぬと思っているのかですが、これは浄土真宗以外の他の宗旨の教えが混ざってしまったという事です。他の宗旨の教えの中には、水を供えなければならぬという教えがあります。

その教えでは、人はこの世の人生が終わり、亡くなると、一度「餓鬼道」(がきどう)というところに行きます。そこは空腹が満たされることなく、喉が乾いても水を

飲めない苦悩の世界です。そこでこの世に生きている人が「施餓鬼供養」(せがきくよう)という行為をして一日も早く極楽へ行けるように願うということです。その施餓鬼供養の第一歩が水を供えることなのです。ですから亡き人を偲びながら毎日を水をお供えることが大切なのです。

ところが、浄土真宗の教えは、このような教えとはかなり違っています。浄土真宗では本尊である阿弥陀様が、念仏する人は一人残らず極楽浄土で成仏するように願われて、その願いを少しも疑わずに、心の底から念仏をとやめれば必ず極楽浄土へ寄り道をしないでまっすぐに行ける、と説かれています。つまり浄土真宗を信仰する

人(門徒とも言いいます)は念仏をとなえることで、餓鬼道へ行くことができなくなるのです。極楽浄土は、その名前の通り極めて楽なところですから、空腹も喉の乾きも全くないのです。ですから水を供える必要は当然なくなるわけで、それでもなお水を供えることは阿弥陀様の本願を信じているのかなあ、と心配になります。

それと同時に、浄土真宗では、仏壇に供える食べ物(お菓子や果物)は、仏様や亡くなった人に食べさせるといったものでは絶対にありません。前にも述べたように仏様も亡くなった人も極楽浄土で満ち足りているので、供えたものを食べたりにしません。浄土真宗の

お供えは、そのような美味しい食べ物を食べることができる私達の境遇を感謝する意味で供えるので、お参りが終わったら下げて、美味しい内に残さず食べて供えた意味が完結します。ですから、たまにご先祖様が食べたかどうかかわからないから置いたままにする、と言う人はちよつと違うのかな、と思います。

戒名？ 法名？

浄土真宗の門徒の人でも戒名と言う人がいますが、浄土真宗では戒名ではなく法名だと言うこともここで少し解説します。

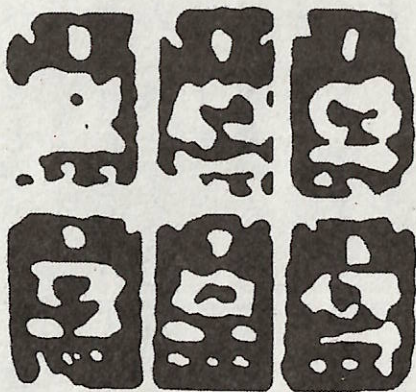
戒名と言う名は、浄土真宗以外の他の宗旨で、仏道を歩もうとす

る人が「戒律」と言うものを授けられてそれを受け入れることを誓った人がいただけ名前です。戒律とは、「してはいけないこと」がいくつもあります。それを受け入れ守って生きていくには強い気持ちが必要なければ挫折してしまいます。

そこで浄土真宗を開いた親鸞様は、それ程強い気持ちがなく、すぐ挫折するような人でも救われる道を説いてくださいました。それがひたすら念仏を唱える、と言う道です。私達は、よく禁煙するぞ！とかダイエットするぞ！と言いつつ、すぐにくじけてしまうこともよくあります。強い気持ちで戒律を守っていける人より、挫ける人のほうがはるかに多いでしょう。

そのために念仏を唱えよ、と言う教え（仏法）にすがって成仏しようとする願う門徒がいただけるのが「法名」です。

法名は戒律を守って生きていけなくても極楽浄土へ行けると言う素晴らしい教えを表しているのです。



五月の常例布教（法話）のご案内

○前期 五月七日（火）～十一日（土）

東海教区三重組 延長寺

講師 寺尾 俊洋 師

○後期 五月十三日（月）～十六日（木）

和歌山教区海草組 西方寺

講師 岩清水 成海 師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時（法要終了後）～

午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話を
して頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、
ご聴聞に来院ください。席の間隔を保ち、換気
実施の上、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院

電話 (0134) 231074
FAX (0134) 291408
テレホン法話 2711616番